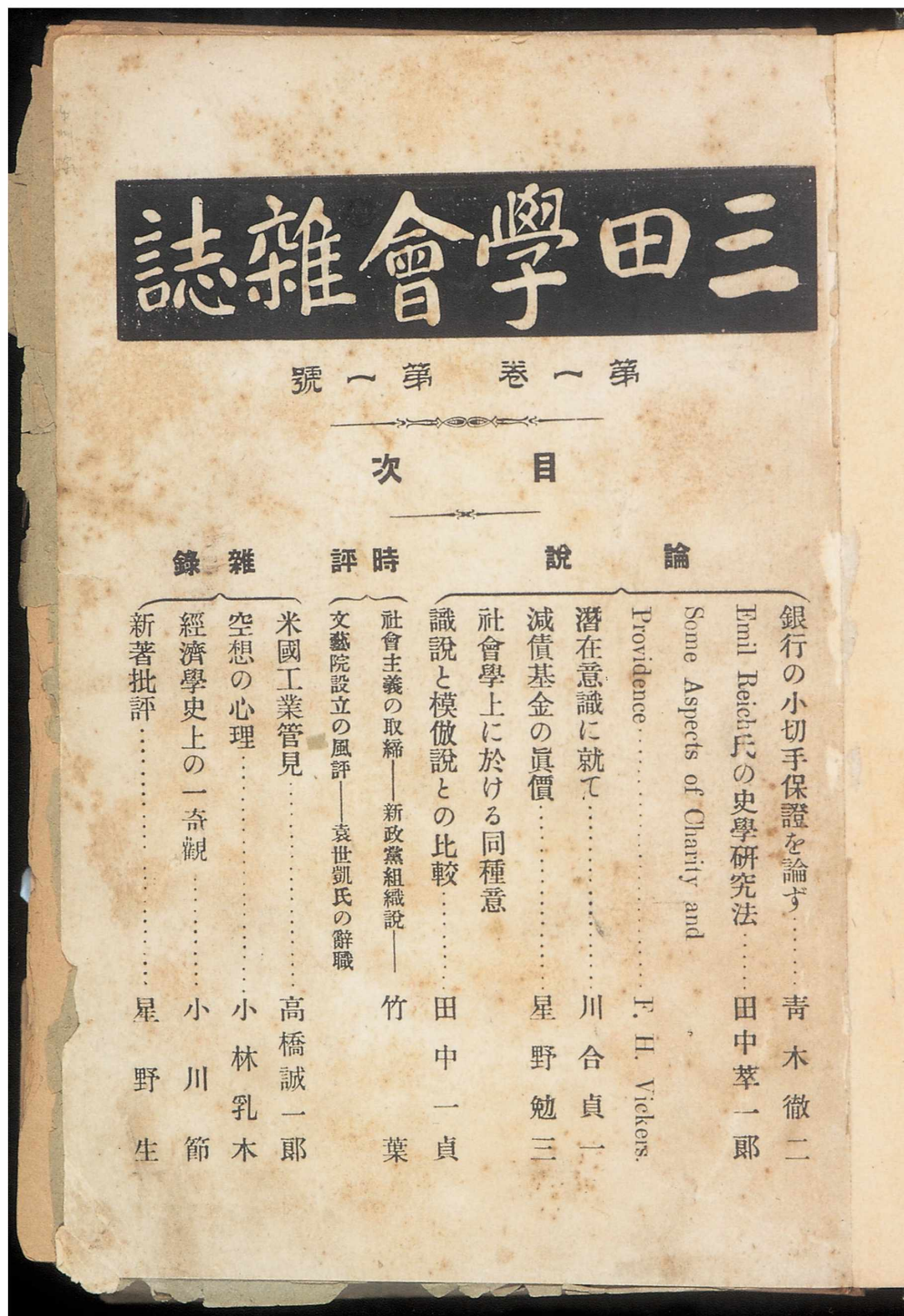


Title	写真に見る『三田学会雑誌』のあゆみ
Sub Title	Photographs
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2007
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.100, No.1 (2007. 4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	特集：『三田学会雑誌』100巻 口絵
Genre	Photograph
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20070401--002

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

写真に見る『三田学会雑誌』のあゆみ



三田学会雑誌

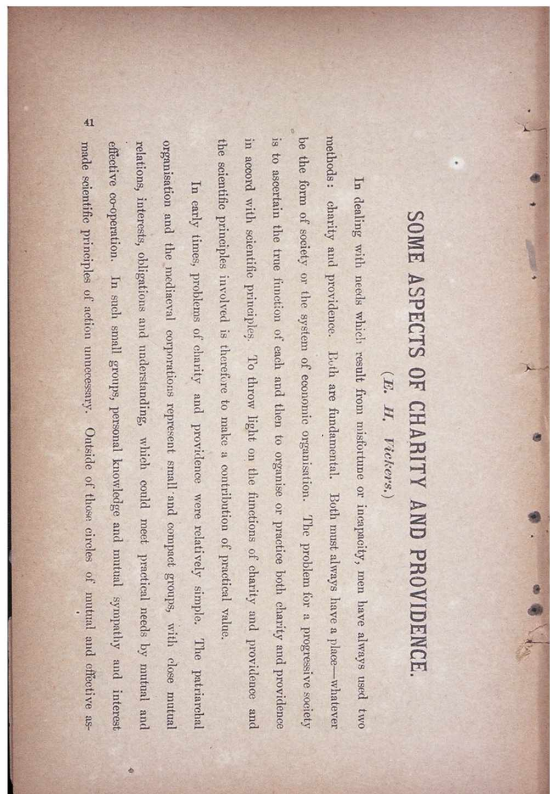
第一卷 第一号

目次

論	時評	雑録	新著批評
銀行の小切手保証を論ず……………青木徹二	文藝院設立の風評——袁世凱氏の辭職……………竹葉	米國工業管見……………高橋誠一郎	新著批評……………星野生
Emil Reich氏の史學研究法……………田中萃一郎	社會主義の取締——新政黨組織說……………竹葉	空想の心理……………小林乳木	經濟學史上の一奇觀……………小川節
Some Aspects of Charity and Providence……………F. H. Vickers	識說と模倣說との比較……………田中一貞	減債基金の眞價……………星野勉三	
潜在意識に就て……………川合貞一	社會學上に於ける同種意識……………田中一貞		

『三田学会雑誌』創刊号 第1卷第1号 (1909年2月) 表紙 (実寸の86%)

創刊号への E. H. Vickers および
高橋誠一郎の寄稿の冒頭頁

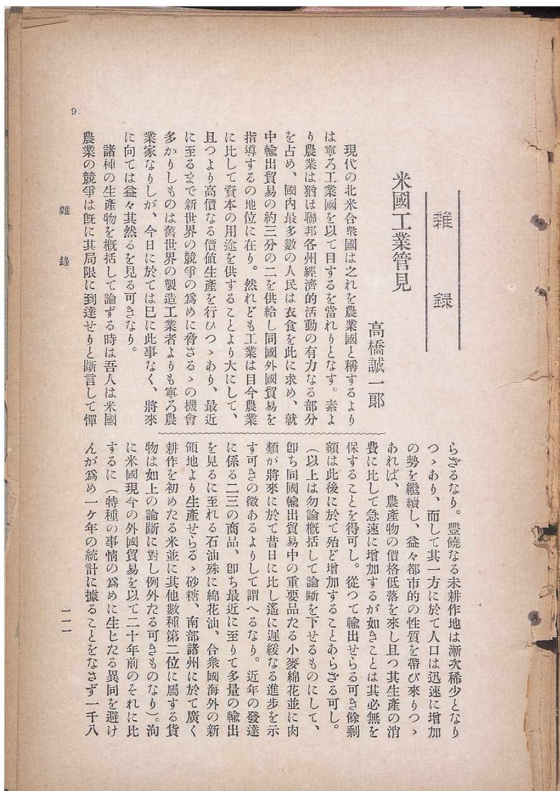


SOME ASPECTS OF CHARITY AND PROVIDENCE.

(E. H. Vickers.)

In dealing with needs which result from misfortune or inequality, man have always used two methods: charity and providence. Both are fundamental. Both must always have a place—whatever be the form of society or the system of economic organisation. The problem for a progressive society is to ascertain the true function of each and then to organise or practice both charity and providence in accord with scientific principles. To throw light on the functions of charity and providence and the scientific principles involved is therefore to make a contribution of practical value.

In early times, problems of charity and providence were relatively simple. The patriarchal organisation and the medieval corporations represent small and compact groups, with close mutual relations, interests, obligations and understanding, which could meet practical needs by mutual and effective co-operation. In such small groups, personal knowledge and mutual sympathy and interest made scientific principles of action unnecessary. Outside of these circles of mutual and effective as-



雜誌

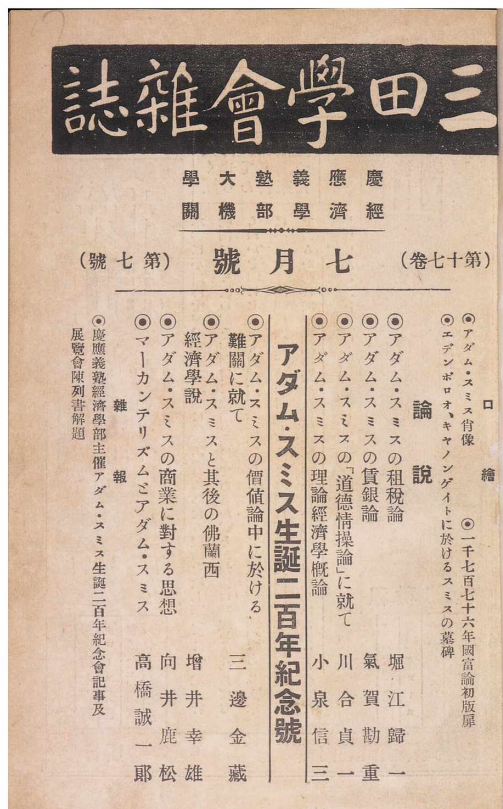
米國工業管見

高橋誠一郎

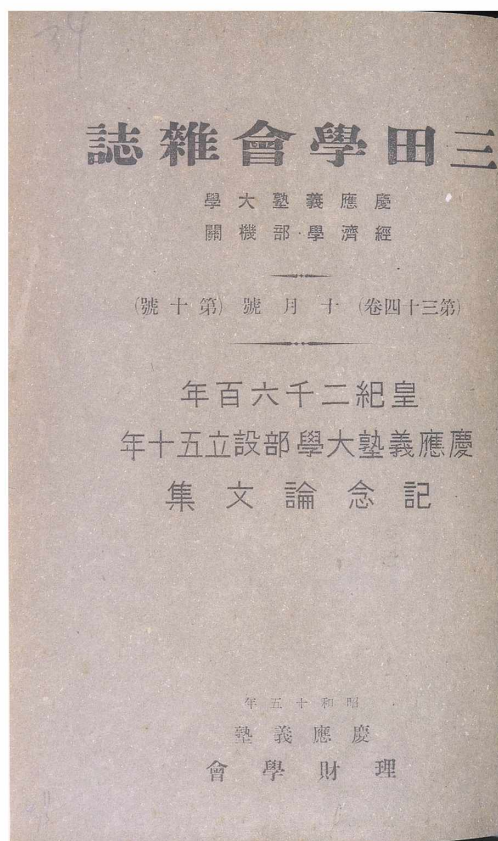
現代の北米合衆國は之れを農業國と稱するよりは寧ろ工業國を以て目するを當れりとなす。素より農業は猶ほ聯邦各州經濟的活動の有力なる部分を占め、國內最多數の人民は衣食を此に求め、就中輸出貿易の約三分の二供給し同國外國貿易を指導するの地位に在り。然れども工業は目今農業に比して資本の用途を供することより大にして、且つより高價なる價值生産を行ひつゝあり、最近に至るまで新世界の競争の爲めに脅さるゝの機會多かりしものは舊世界の製造工業者よりも寧ろ農業家なりしが、今日に於ては已に此事なく、將來に向ては益々其然るを見る可きなり。

諸種の生産物を概括して論ずる時は吾人は米國農業の競争は既に其局限に到達せりと斷言して憚らざるなり。豊饒なる未耕作地は漸次稀少となりつゝあり、而して其一方に於て人口は迅速に増加の勢を繼續し、益々都市的の性質を帯び來りつゝあれば、農産物の價格低落を來し且つ其生産の消費に比して急速に増加するが如きことは其必無を保つことを得可し。従つて輸出せらるる可き餘剩額は此後に於て殆ど増加することあらざる可し。

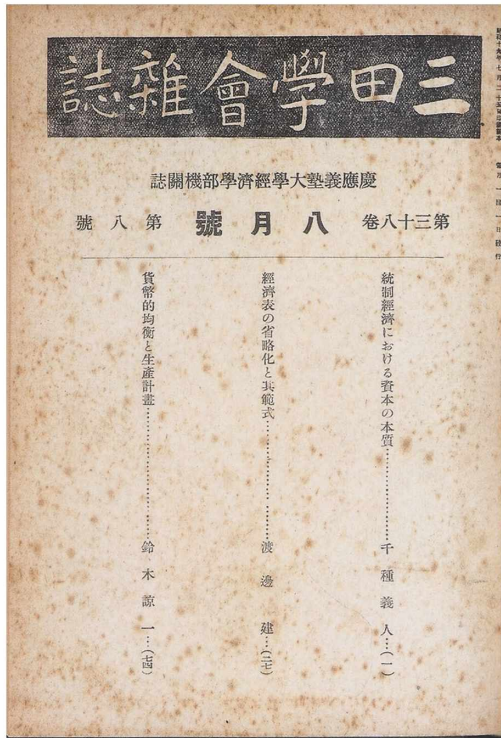
(以上は勿論概括して論斷を下せるものにして、即ち同國輸出貿易中の重要品たる小麦棉花並に肉類が將來に於て昔日に比し遙に遅緩なる進歩を示す可きの徴あるよりして謂へるなり。近年の發達に係る二三の商品、即ち最近に至りて多量の輸出を見るに至れる石油殊に棉花油、合衆國海外の新領地より生産せらるる砂糖、南部諸州に於て廣く耕作を初めたる米並に其他數種第一位に屬する貨物は如上の論斷に對し例外たる可きものなり。前に米國現今の外國貿易を以て二十年前のそれと比するに(特殊の事情の爲めに生じたる異同を避けんが爲め一ヶ年の統計に據ることとなさず一千八



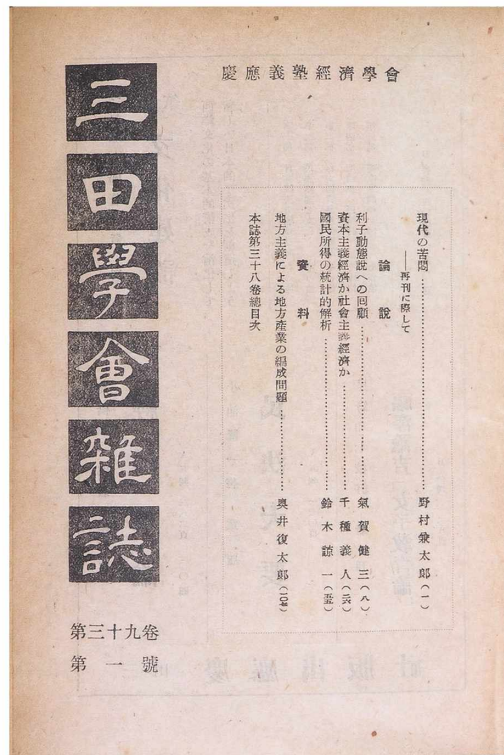
『三田学会雑誌』第17卷第7号
(1923年7月)表紙



『三田学会雑誌』第34卷第10号
(1940年10月)表紙



戦前終刊号の表紙
 (『三田学会雑誌』第38巻第8号 1944年8月)



戦後再刊号の表紙
 (『三田学会雑誌』第39巻第1号 1946年7月)

現代の苦悶

— 再刊に際して

野村兼太郎

現在のわが國の状態は徹底的な敗戦の結果、一種の民族的虚脱に陥つてゐる。そこに生ずる不安・動搖・憂鬱・倦怠・絶望は歸一すべき中心を失ひ、將來に對する希望・理想と民族的自負とを喪失したがためであるとみることゝも出来る。しかし單にそれだけであらうか。今日の日本は精神的にも、物質的にも世界から孤立させられてはゐるが、なほ世界の全體の動向から無關係といふわけではない。世界における大きな精神的及び物質的諸國向の一環として動きつゝある。

世界は兎に角戦を終つた。その點においては各民族とも一應一息ついた氣持になつてゐる。目下は戦争に依つて生じた混亂を整理し、再編成するために忙殺され、靜かに反省する餘裕もないくらいではあるが、假令勝利を得た國々にあつても、なほ朗かに平和を喜び得る状態にあるとは思はれない。われわれの耳に入り得る世界の情報は極めて乏しいものではあるが、それでも十分世界における不安・動搖・憂鬱を看取することが出来る。

現代の苦

— (一) —

戦前期の掲載広告

ひ望を記附御旨る依に告廣誌雜會學田三は館の文注御へ主告廣

專門大家百十餘名 各項署名執筆

經濟大辭書

冊八至頁千四判大
圓四金拂割分
郵外に 回八、づ

時勢の急切なる要求

に應じ經濟的智識の一切を最も便利なる形式に於て諸君に提供せんが爲め豫約出版法の規定に從ひ最低特價を以て本大辭書の豫約募集を開始す。但し最低特價の提供は極めて短期に限り期限後は購じて十六圓乃至廿一圓の値上を執行すべきが故に御希望の諸君は此際迅速申込あるを要す。内容見本進呈 送料二錢

東京神田區神保町
電話本局一四三七
振替東京第一三三五

同 文 館 募 集

『三田学会雑誌』第4巻第4号（1910年10月）

の 一 本 日

報 新 事 時



△雑誌と同形である
本館新刊種

△朝夕刊十四頁
定価月一圓
好評の日清露露旅行

◇ 端 濠 お 内 の 丸 ◇

『三田学会雑誌』第22巻第1号（1928年1月）

の 貴 實

險 保 供 子

歳 9 リ よ 歳 0



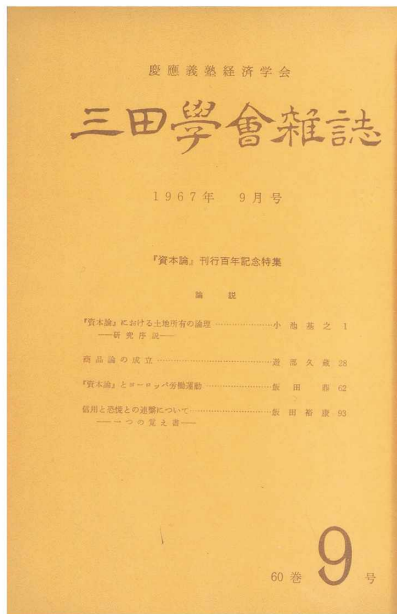
初年度より
増原付
保険料低廉

織 組 互 相

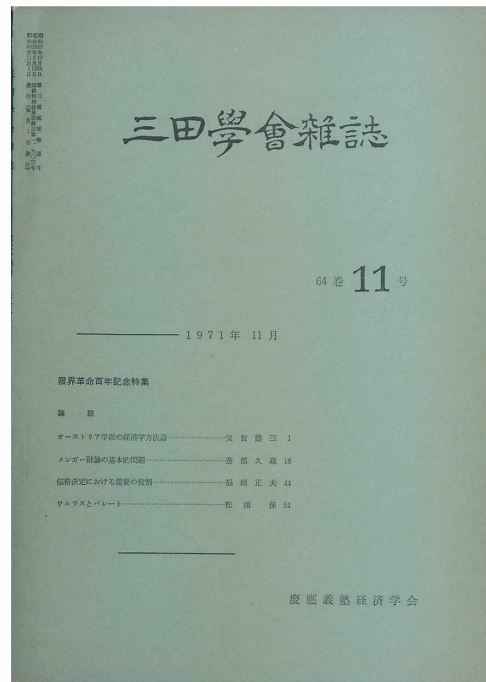
命 生 田 代 子

機 京 京 東 社 本

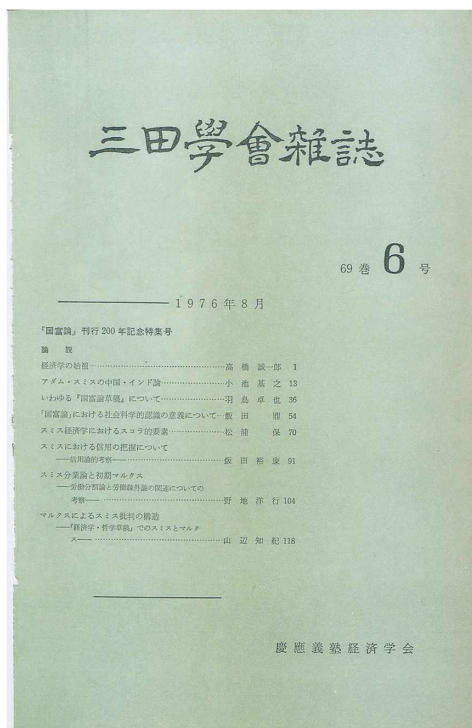
『三田学会雑誌』第38巻第8号（1944年8月）



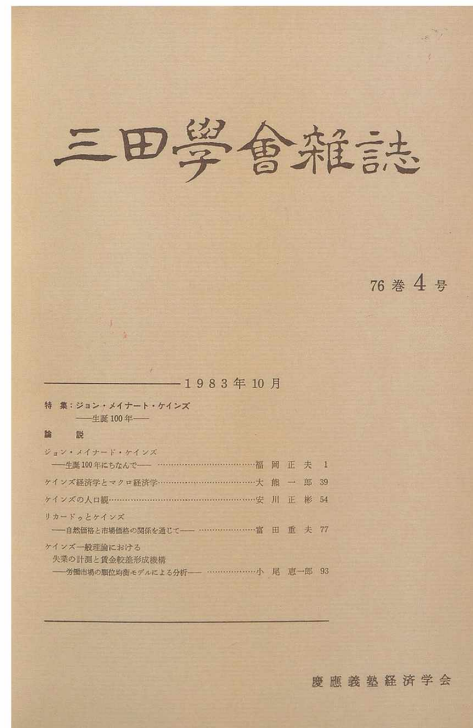
『三田学会雑誌』60巻9号
(1967年9月)表紙 (A5判)



『三田学会雑誌』64巻11号
(1971年11月)表紙 (B5判)

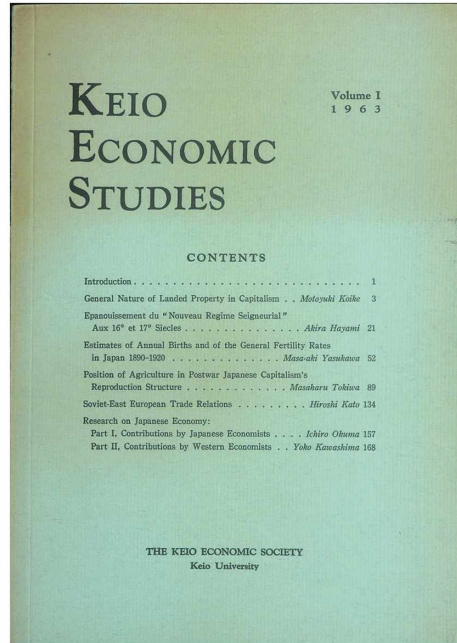


『三田学会雑誌』69巻6号
(1976年8月)表紙 (B5判)

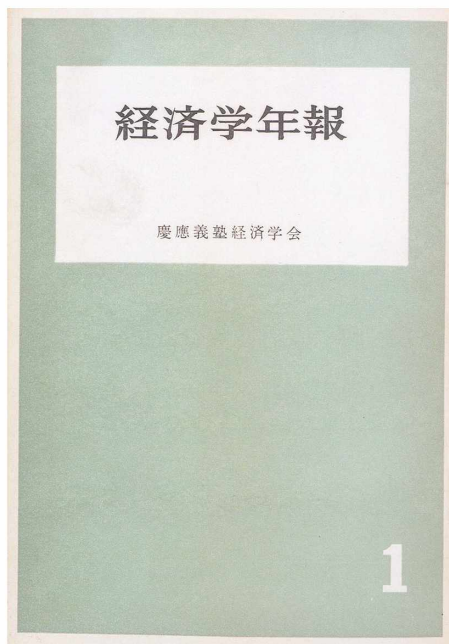


『三田学会雑誌』76巻4号
(1983年10月)表紙 (B5判)

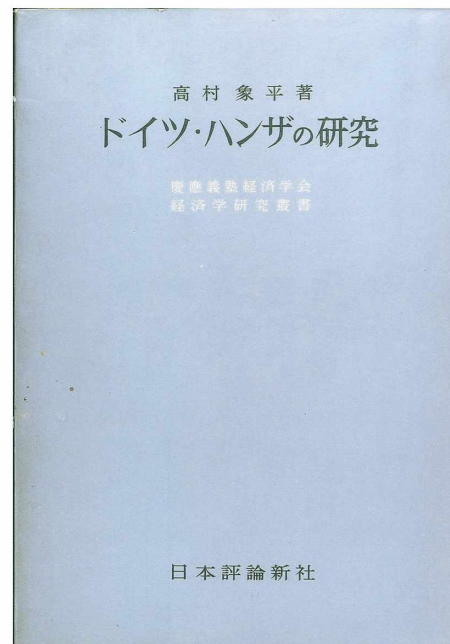
戦後期の『三田学会雑誌』以外の主要刊行物



『KEIO ECONOMIC STUDIES』 Volume I
1963年 表紙



『経済学年報 1』(1957年度) 表紙



慶應義塾経済学会経済学研究叢書
『ドイツ・ハンザの研究』
高村象平著 日本評論新社 1959年